

2025年度 学校関係者評価

教育・保育理念

- 自ら学び、自ら育てる力を育む

教育・保育目標

- 自分を大切にできる子ども
- みんなを大切にできる子ども
- 自分で考え、行動できる子ども

教育・保育方針

- 互いに愛し合う心を育てる
キリスト教、カトリックの教えに基づき、祈りを通して感謝する心、互いに愛する心、尊敬し合う心を育て、一人ひとりを大切にする宗教教育
- 整えられた環境の中で、個性を大切にし、豊かな創造性・自主性・知性を育てる
かけがえのない人格を持った子どもたちが、整えられた環境の中で、自分の能力、興味や関心によって、作業を選択し、自分のペースで活動することで達成感を味わい、自己形成ができるモンテッソーリ教育

年齢別 教育・保育目標

5歳児

- ・生活に主体的にかかわろうとする
- ・友だちと協力したり、考えたりしながら、様々なことに挑戦し、自信を獲得していく
- ・生きもの、食べものを大切にする

4歳児

- ・基本的生活習慣を身につけ、自分で考えながら行動する
- ・保育教諭や友だちとのかかわりを深め、友だちの気持ちに気づき、集団で行動できるようにする

3歳児

- ・保育教諭や友だちと遊ぶ中で、自分のしたいこと、言いたいことを言葉や行動で表現する
- ・食事、排せつ、衣服の着脱などの基本的生活習慣が身につき、ほぼ自立できるようにする
- ・遊びや活動を通してルールやマナーを知り、守ろうとする

2歳児・満3歳児

- ・保育教諭との安定したかかわりの中で、基本的生活習慣を身につけ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る
- ・遊びを通して、のびのびと体を動かし、丈夫な体づくりをする

本年度の重点目標・計画

教育内容に関して

- ◆ 自立し、安心して過ごす中で、友だちとのかかわりを通して、思いやりの心を育む
- ◆ モンテッソーリ教育の充実
- ◆ 宗教教育の充実
- ◆ 2歳児保育の充実
- ◆ 預かり保育の充実（保育者の目が行き届いた保育環境）
- ◆ 保護者とのつながり、信頼を深める

評価項目の達成及び取り組み

	評価項目	取り組み内容	保護者・アンケート結果	教師・自己評価	理由	評価 (A～D)
1	教育方針・目標	・教育方針・目標は、園の特色を生かしたものとなっているか。	保護者	・子どもたちが主となり生活し、その時期、その個人に応じた自分らしさ、良いところを伸ばすよう配慮されていた。 ・幼児が、伸び伸びと生活する中にも、教育的意図が生かされていた。 ・モンテッソーリ教育の特色が保育の端々に見られなかった。 ・水曜日のオープンデー選択制（おしごと・外遊び・図書室・どろんこ遊びなど）では、子どもが主体的に活動できる環境が整っていなかったのが残念であった。		A
			教師	・カトリック精神による宗教教育が本園の最も重要な教育方針であり、本園を選び、入園させてくださる保護者のみなさんからは、おおむね、理解いただいている結果が表われていると思われる。また、もう一つの教育の柱である、モンテッソーリ教育については、日々の生活の中から、子どもたちを通して保護者の方に伝わるような教育・保育を心がけていく努力をしていく。 ・職員が研修、自己研鑽に努められる体制を作っていき、モンテッソーリ教育、保育を充実させる努力をしていく。 ・子どもたちがゆっくりと自主自立できるようなカリキュラムの見直しを行っていく。 ・主体性をもって活動できる環境づくりの整備を		A

			教員の一致した考えの下、行っていく		
2	情報の発信と受信	・保育者との対話、連絡などコミュニケーションを図り、問題が生じたときはクラスに関係なく全職員で対応するなど安心して預けられる環境をつくっているか。 ・保護者への連絡、保護者からの伝達などミスや遅れがないよう確実に行い、提出物の処理、事務処理をスムーズに行えているか。	保護者	・担任以外の保育者から声をかけられたり、対応してもらって安心できた。 ・園児数増加により、保育者と会話の回数が減ったように思われる。 ・一日の子どもの様子の報告を毎日してほしい。	B
			教師	・日々の子どもの様子は連絡帳を通して、又、学期ごとの懇談会や「ホームルームだより」等によって、担任は保護者と密接に連絡を取り合っている姿が一定、評価されていると思われる。今後も保護者のあらゆる願いに応えられるよう、努力していく。	B
3	指導計画の作成と評価	・行事について、幼児の発達を考えながら実施し、子どもの実態やねらい等について教職員と話し合い、見直しを行えているか。 ・業務がより効率的にできるよう係活動行事、環境構成など余裕を持って計画し、能率よく機敏に作業を進めることができているか。	保護者	・行事など、連携が図られ、スムーズな進行ができていた。 ・行事一つひとつの質をもう少し高めてほしい。 ・行事を通して子どもの成長を感じ取ることができた。	A
			教師	・常に子ども視点で一つひとつの行事を考え、取り組んだことにより、子ども、保護者、保育者ともに満足のいくものとなった。 ・教材研究、研修を積み、保育の質を高め、保育の中で子どもに返していけるようにしていきたい。 ・新しいかたちの園活動の在り方を考え、つくり進めていく。	A
4	教職員同士の協力・連携	・保育者間の連携を十分に図り、保育の在り方を考え、教材研究、実践研究、新任教員への指導などに努めているか。 ・幼児のことについて常に保育者間で話し合い、クラス、学年を超えて情報を共有しているか。	保護者	・保育者間の連携はよく図られていた。 ・教師間でのフォロー体制がしっかりとできていた。	A
			教師	・毎日の振り返りや、ミーティング、園内研修等で、格差のない保育を心掛けていきたい。 ・教員全員がすべてのことを情報共有できる体制を整えていく。	A
5	教育環境の構成 幼児のみとりと理解	・全保育者が即座に生かせる感性、保育技術を高め、子どもたちが楽しく生活したり、学んだり、育ちあったりできるあたたかい環境をつくり、人とかかわる力が育つような配慮をしているか。 ・幼児の話をよく聞いたり、言葉に	保護者	・3・4・5歳児の縦割りクラス編成により、助けあったり、教えあったり、育ちあう姿が見られた。 ・幼稚園に行き出し、集団生活の中で譲ったり、相手を待てたりといった育ちがたくさん見られるようになった。	A

		ならない思いやサインを受け止めるよう努めているか。	教師 ・保護者のみなさんからは一定、信頼されているように受け取れるが、保育者はどのような場合にも子どもと向き合うときは、1対1の関係を保つように努力をし、一人ひとりにあった対応、保育を心がけていきたい。	A
6	地域との連携 子育て支援	・小学校との連携交流、園外の施設との交流などにより、人の温かさや、心配り、大きくなることの意味を感じる活動に取り組めていたか。 * 預かり保育 ・本園の教育方針に従った保育を行っていながらも、縦割り保育のよさを生かし、家庭的な雰囲気づくりに努めることができていますか。 ・手作りおやつを通して、楽しいおやつの時間を持てているか。	保護者 ・園外に出かけることにより、いろいろな立場の人と出会い、社会ができていて学べる機会を増やしてほしい。特別支援教育、地域支援教育を前年度より多くとることが出来ていた。 教師 ・私立幼稚園としての本園の在り方は、広範囲の地域から通園する保護者にとっては、見えにくくなっているものと思われる。カトリック教会所属の幼稚園としての存在価値を今後も高めるよう努力していく。 ・幼稚園ではできない体験をする機会が持てるよう、地域の方との交流を深め、地域に根差した幼稚園になれるよう取り組んでいく。 ・地域の中には、園の周りから、小学校、支援等各種関連機関も含まれることから、関連機関とも密に連携し、色々な角度から子どもの成長を見守り、育ていけるようにしたい。	A B
7	安全への配慮 安全管理体制の整備	・火災、自然災害に対する訓練、安全指導などを繰り返し行い、とっさの判断で教師と子どもが連携して身を守るようにしていく。 ・緊急時の対応手順について、全教職員が共通の理解を持てるよう取り組んでいるか。	保護者 ・いろいろな想定で訓練していることを、家庭でも話題にしている。危険を回避する行動を少しずつとれるようになってきた。 ・遊具を使った遊びで保育者の目が行き届いてないと感じる場面があった。 教師 ・今後も緊急時のマニュアルについて、保護者にその徹底をはかり、子どもの安全確保に更に努めていきたい。 ・いざという時に備えをしっかりと行っていき、全職員が共通意識をもって行動できるようにしていく。 ・時には、教職員には予告なしの訓練を実施することで、どんな状況でも対応できる判断力を身につけていく。 ・保護者や子どもたちに不安を覚えさせることのないように、十全の努力をしていく。 ・地域の奈良市女性防災クラブの方が来園し、紙芝居を通して防災指導を連携に行った。	B B

			防災訓練を実施した。防災だけでなく、防犯の訓練の強化も図っていく。	
--	--	--	-----------------------------------	--

今後重点的に取り組むべき課題

教育内容に関して

- * カトリック教育、モンテッソーリ教育、縦割り保育の三本を軸とする保育の充実
- * 教諭のキャリアアップを図り、保育の質の向上
- * モンテッソーリ教育の園内研修の充実、一致した保育、格差の無い保育環境
- * 生活カリキュラムの見直し、子どもにとって生活しやすいプログラムづくり
- * 行事の見直し
- * 地域との連携、地域に密着した保育

関係者評価

評価者：石原勉・加藤富士子・小西雅之・田村久・岡原広茂・堀口温秀・太田佳奈子・小田原千秋

- 保護者はおおむね、肯定的な意見が多く、園の教育活動についても理解してもらえていると感じた。既に対応にしているとは思いますが、いくつかの改善要望や、否定的な意見については、できるだけ、その具体的な場면을明らかにし、教職員で共有することが望ましい。そのうえで保護者の要望にすべて答えるというのではなく、理解を得るような説明を中心に必要に応じて具体的な対応を検討するのが良いと感じた。
- 保護者からの要望に対して、改善できるところはすぐに行ったことは評価できる。
行事写真購入方法（現金購入⇒ネット決済）
保護者への連絡配布物の変更（紙媒体⇒アプリにてデジタル配信 3 分の 2）
子どもの様子の伝え方の工夫（『きらっとカード』というものを作り、その子が今日一番輝いていた内容を一言書きし、保護者に渡す）し、継続して行っていく。
- 今の保育現場では、なかなか皆が揃って情報を共有する時間をとることは難しいが、長い間積み重ねてきたこと、奈良カトリックの保育に対する思いや、残していかなければならないもの、新しく変わって今すぐにでも取り組まないとならない毎日の保育のことなど、職員で情報を共有し、思いを一つにして、より良い保育、環境を作る努力をしていかなければいけない。
- 保護者の意見に耳を傾け、改善すべきところは実践していかなければならないが、園の大切にしている方針等のご理解いただけるよう、丁寧に伝え、同じ思いで子どもを育てていけるようにすることが大事である。
- 日々の振り返り、ミーティング、園内研修、情報共有の体制・・・、いずれも大切に必要要素であるが、無理のない協働の構築を図っていくこと。
- 教育の 3 本の軸が相互に関連し、子どもの成長につながっていることを保育の具体的な場面で、保護者に理解してもらえともっと良い。
- とてもきめ細やかな園評価がなされている。毅然とした姿勢と、子どもに向かう自信を大切に運営していくこと。
- 自己評価の結果について、内容はほぼ適切である。
- モンテッソーリ教育の素晴らしさが、保護者の方も理解してくださっていることが、アンケートから伺え

た。

- 保護者と保育者がともに、考え、協力し合いながら、子どもたちのためによりよい保育を目指して、更に歩んでいくことを期待している。
- 保護者間とのコミュニケーションをしっかりと取り、信頼関係を構築していく。
- 多くの園児が楽しいと感じ、保護者の多くが、園の教育に理解を示されている結果でよかった。
- 職員数も多くなるとシフトの都合上、コミュニケーションをとる時間の確保が難しいと思うが、それ故、常に「どのような子どもに育てほしいと考えているのか。そのために大人はどう子どもと関わっていくのか、子どもの姿は・・・」といったことを問いかけ、発信し続けていくことが大事。
- 反省点や、改善点、保育方針に対する支持、肯定意見から、教職員への自信につなげていくようにする。
- これからはますます教育の質の高さがより強く求められる。教職員は子どもとかわることに満足せず、幼稚園の4年間で子どもがどう変わってきたのかを観ていく力、評価していく力をつけることが重要である。
- これからの幼稚園は確固とした自園のビジョンを持ち、地域とつながりながら、学びのコミュニケーションを形成し、学び続ける園であることが必要である。そのため教師同士が語り合い、学び合う園内研修が必須である。
- 学校運営に関しても、今年度同様、来年度も見える化を図り、健全に行えるようにしていく。
- 本園の教育の柱としているモンテッソーリ教育を子どもが自ら考え、行動している姿を保育参観から多く感じる事ができた。
- 園内作品展を参観して、地域の方々にも公開していくことで、本園の教育にご理解いただけるのではないだろうか。

総合的な評価結果

2026年6月19日（金）に開催された学校関係者評議会でおおむね達成と評価された。